

10 年後に向けて～子どもたちからのメッセージ～

平成 20 年 9 月に、関市に住む中学生と高校生の皆さんにインタビューを行い、身の回りの性差に関する様々な問題について話をうかがいました。

これが、未来の関市を担う子どもにとっての男女共同参画の現状の姿です。本プランの推進によって、10 年後の意識はどのように変わっているのでしょうか。

【学校について】

男子はこうでなくてはならない、女子はこうでなくてはならないと決めつけられることはありますか？

・ランドセルの色は、自由だよ。
・体操服の色も、男女同じ。
・出席番号はあいうえお順だし、男子が先、女子が後ということはないね。

…でも、言葉づかいでは、女子が男子のような言葉づかいすると変な目で見られちゃうかな。

先生は、男子と女子では言い方に違いがあるんじゃない。男子には強い言い方したり。(笑)

授業を受ける時は、男女の差はあまり感じないな。

学校はもう完全に男女平等になっている？

学校教育の中では、男女の差を感じることはあまりないようです。しかし、学校の先生が意識の中に持っている固定的な「男の子」「女の子」のイメージを、無意識のうちに子どもたちも感じ取っているのではないのでしょうか。

【家庭について】

お父さんもお母さんも家事に参加していますか？

お母さんが何も言わないと、お父さんはご飯を待っているだけ、っていうことはあるな。

・お父さんも家事をしているよ。
・お父さんもお母さんも、両方仕事をしているけど、2人とも家事もして協力し合っている。

・お母さんの方が比重は重いけど、お父さんもしている。
・お母さんがお願いすると、お父さんはやってくれる。
・お母さんがいないときは、お父さんがやっているな。

・家事を手伝ってくれる人がいいな。
・意見を聞いてくれる人。
・結婚しても仕事を続けると思うので、そのことを理解してくれて、できないことを補ってくれる人。

将来、どんなパートナーと暮らしていきたいですか？

家族は、サポートし合うためにいるのだから、お互いにサポートする。お互いに支え合うといい。

現在では、家庭の中で父親が家事に参加する姿が当たり前になりつつあります。しかし、子どもたちの目には、家事は、まだまだ母親が中心で、父親がたまに手伝うという姿が映っています。また、将来のパートナー(夫)は、「家事を手伝ってくれる男性がよい」という女性の意見が多くあり、女性が家事を行うのは当たり前だという固定的な観念を、女生徒自身が持っていることがうかがえます。

男性と女性が仕事も家事も、協力し合って取り組む姿を見ながら成長した子どもたちは、男女が同じ役割を担うという価値観を持ちながら家庭を築いてくれることでしょう。

【男女平等の社会について】

どのようになったら、男女平等の社会になっていくと思いますか？

女の人がもうちょっと向上心を持つといい。女の人が平等になっていないところに、もっと入り込んでいく。たくさんの女の人が、私もやろうと動いたら世の中変わっていくのではないかな。

うちではお父さんが食器洗いをして、弟がお風呂洗いをして、妹が洗濯物を干して…と役割分担しています。一人ひとりに決められた役割はあるけど、男だからこういう仕事、女だからこういう仕事と決めていくのではない社会になったらいいな。

【男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくといった考え方について】

男と女で給料や待遇が違うのはいやだ。

男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくといった考え方をどう思いますか？

男の子でもお菓子づくりが上手な子がいるし、女の子ですごくしっかりして男の子っぽい子もいる。かわいらしい女の子もいる。個性であっていいと思うな。

男らしさ、女らしさの境界はよくわからないけれど、男の子が女装したり、女の子が男みただったりということは個人の自由だし、それを認められないのはどうかと思うな。

男の子は、おしとやかで女の子らしい子がいいと思う子もいる。個人の思いを尊重しながら、理想に近づければいいんじゃない。

てきばき働く女の人がいて、部長とかの地位についている人がいるけど、そういう人に限って男の人から敬遠されちゃうような気がするな。

子どもたちは性別ではなく、自分らしく、そして大人たちにもその人らしく生きてほしいと思っています。子どもたちのためにも、男女共同参画社会をつかっていくためにはどのようにしたらいいか、私たちが考え、そして行動に移していく必要があります。